

# 「ツチグモ（土蜘蛛）」

## — 解説と総目次 —

唐 井 清 六

「ツチグモ」（第十四号からは「土蜘蛛」）は大正三年三月から同六年八月まで飛騨高山で刊行された同人雑誌である。全二十二冊。主な同人は、福田鋤雲（本名吉郎兵衛、別号吉平、きち）、福田夕咲（本名有作、別号氷草）、瀧井折柴（本名孝作）、小島良々（本名芳郎）、岩瀬菊字（本名喜久二）、土野紅杜鵑（本名千秋）、川島桜南（本名知二）、中谷芋子（本名不明）、吉島貝十（本名新六）ら。

いわゆる「続三千里」の旅とされる明治四十二年七月と同四十五年六月の河東碧梧桐の再度にわたる高山への来訪による新傾向俳句熱のたかまりと、東京にあって詩集「春のゆめ」（明治四十五年）を出し、文学者として一家をなしつつあった夕咲が、大正三年、福田家の跡目を継ぐため長兄鋤雲の養子となって帰郷したことなどによって、発刊の気運が醸成されたものと考えられる。鋤雲は当時、高山の町長で、家業の春慶塗の問屋の仕事にうちこみながら新派俳句に熱意を示し、同人中最年長者として物心両面における大黒柱であった。

編集兼発行者は第十四号まで小島芳郎、第十五号からは福田有

作。実務は、鋤雲から生活費の援助を受けながら大阪および東京で句作の勉強をしていた同人最年少の瀧井孝作が当たっている（第九号まで、あとは有作）。誌型は第十四号まではB四判、第十五号からはB五判。毎号四ページだてであるが、最終号とみられる第二十二号のみが八ページになっている（従来、第二十一号で廃刊と見なされていたが、このたび第二十二号が確認できた）。「今から五十年ほど前の月刊の同人雑誌だが、なかなかハイカラな感じだ」（『福田家の人達』）と孝作が述べるように、第二号は鼠色、第三号は黄色、第四号は茶色ですべての活字を印刷するなど、思いきった試みがなされていて、編集担当者の斬新な感覚がうかがえる。ただし月刊はたてまえで、かなり不定期な刊行となっている。

誌名の「ツチグモ（土蜘蛛）」とは、古代、飛騨地方に蟠踞していた先住民の称呼であるという。すなわち、「祖先の充実せる生活の気分を（略）憧憬」し「再び祖先の生活にかえり、茲に日本文学ありというような痛切な生活中心の文学の創作を」（城麓生「生の肯定」）志向したものらしい。これは、生活に近づく、という新傾向の理念を踏まえたかたちの主張でもあったろう。

巻頭には、夕咲の「山房より」を据え、以下同人の手になる評論、小説、随想、詩、短歌、俳句、消息等、バラエティーに富んだ内容になっているが、新傾向色の濃い俳句作品が中心であることはいうまでもない。「砂金抄」として同人句会の俳句を掲載。鋤雲は「我今集」、折柴は「一切集」として分量的にもっとも多く俳句を発表している。同人外にも碧門の中塚一碧楼、塩谷鶴平、兼崎地橙孫、山口葉吉、江田良雄等が寄稿。京都の画家山口八九子が雅趣あるカットを添えている（第十四号まで）。第十四号から第十九号まで使われた「土蜘蛛」の題字は碧梧桐の手になるもの。碧梧桐

が蒔いた種が地方に育った一つの例とみることが出来よう。新傾向俳句運動の退潮に伴い、休刊となった模様である。  
なお、「ツチグモ」に発表された作品のうち、福田夕咲のものは「福田夕咲全集」（昭和四十四年）に、小鳥良々のものは「素顔」（昭和四十七年）に、瀧井孝作のものは一部が「瀧井孝作全集（第十一巻）」（昭和五十四年）に、それぞれ収録されている。  
△（ ）内は発行年月日、△（ ）内は編者が付記した内容ジャンル、筆者名である。▽

## 創刊号



創刊号（大正3年3月27日）

□□□「創刊の辞」

手紙のうちから「随想」

顔の皺「短歌七首」

まわた「短歌一〇首」

鏡「小品」

伊藤兄に答ふ「評論」

冬から春へ―笹魚吟社詠草「俳句」

紅杜鵑「一句」鬼骨「二句」飛仙「二句」

句「桜南「四句」鋤雲「六句」菊字「七句」

句「良々「一一句」

春山笑謡詩「詩」

我れがまゝ「随想」

Takayama no hitobito e.〔後記〕

K.T

第二号（大正3年6月13日）

朝めし前「随想」

死沼の底「随想」

喇叭「小品」

ひなげし「詩」

春の名残「俳句」

良々

彰薫

又花村「二句」桜南「三句」良々「六句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

又花村「二句」桜南「三句」良々「六句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

句「鋤雲「九句」折柴「九句」

良々

吉平

吉平

吉平

吉平

吉平

吉平

吉平

吉平

吉平

吉平

吉平

吉平

吉平

吉平

完き夏〔俳句〕

孝作

鋤雲〔一六句〕桜南〔二句〕紅杜鵑〔四句〕

句〕菊字〔一句〕又花村〔二句〕夕咲

〔三句〕折柴〔三句〕

那須野〔短歌九首〕

不空

悪しき血〔短歌三二首〕

吉平

我が旅〔短歌一五首〕

ふかし

土蜘蛛といふすり巻平鋤雲兄のおく

り玉へ類見て詠めりける長歌〔長歌〕慶門

編輯しながら〔後記〕

孝作

第四号（大正3年12月1日）

山房より（「おまつり」「戦敗国の

ヨッパライの歌」）〔随想〕

短歌一首

真化的世界主義〔評論〕

夕咲

新聞を見れば〔評論〕

F A

心〔詩〕

隈々

公園のベンチにて〔随想〕

善一

子蜘蛛〔詩〕

菊字

蛇の子の謔言〔詩〕

きち

古る帯〔短歌八首〕

きち

おもひ〔短歌六首〕

吉平

炎天のくも行〔俳句一九句〕

孝作

俳句会〔随想〕

鋤雲

夜寒まで〔俳句〕

折柴〔二四句〕鋤雲〔一七句〕良々〔一

八句〕夕咲〔四句〕桜南〔四句〕紅杜

鵲〔三句〕又花村〔二句〕菊字〔二句〕

友の手紙から〔俳句〕

兼崎理蔵〔一句〕藤井鳥健〔一句〕小

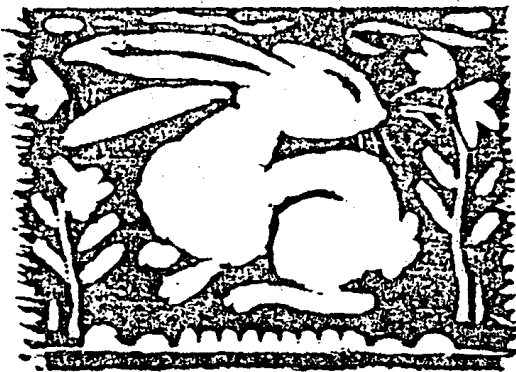
寺晴可〔一句〕山口林造〔二句〕松原

奇然公〔二句〕島津四十起〔二句〕山

口八九子〔四句〕

消息

孝作



ツグモ第五号

第五号（大正4年1月25日）

俳諧異安心〔随想〕

夕咲

珠数とコンタスとの話〔小品〕

隈々

驚かるゝ齡〔短歌八首〕

吉平

眼の色〔短歌四首〕

ふかし

惨虐〔短歌三首〕

善一

役者〔小説〕

芳郎

正月〔随想〕

孝作

羽織巡礼〔俳句二二句〕

鋤雲

心々の春〔俳句〕

折柴〔二九句〕良々〔二七句〕鋤雲〔一

三句〕氷草〔七句〕隈々〔七句〕菊字

〔六句〕桜南〔二句〕紅杜鵑〔二句〕

消息

折柴

第六号（大正4年3月1日）

山房より〔随想・短歌一〇首〕

超人説に対して〔評論〕

夕咲

大実在

A 生

いぬ〔小品〕

孝作

冬まへだれ〔俳句一八句〕

鋤雲

（人間）自発にて天然  
力による作用

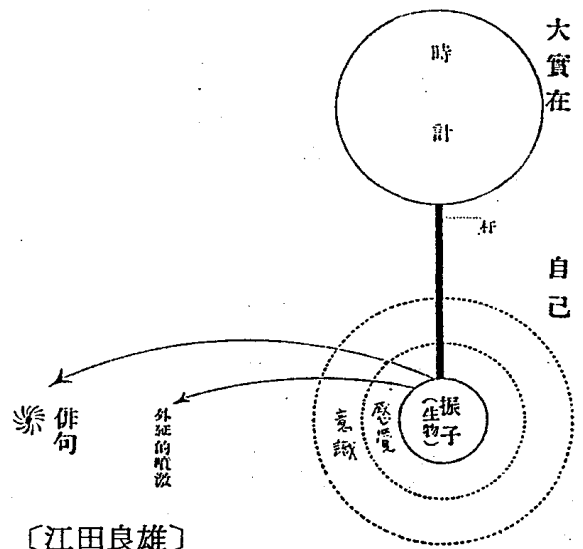
俳句

動物—感覚—意識

〔江田良雄〕

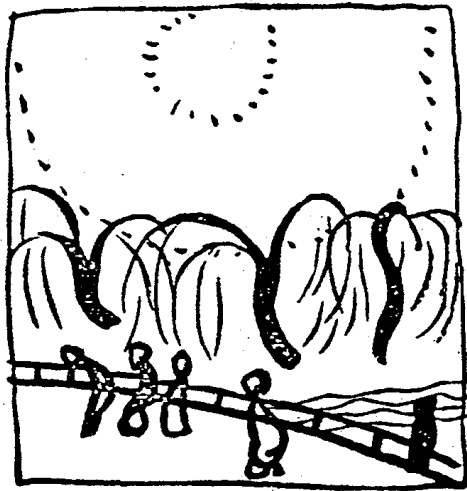
物心の溝

反逆則征服



無題四篇〔詩四篇〕 限々  
無題〔詩〕 一碧楼  
蝸牛〔詩〕 F A  
友と私〔詩〕 きち  
雪につままれて〔短歌八首〕 吉平  
一切集〔俳句四六句〕 折柴  
我今集〔俳句二七句〕 鋤雲  
粉雪集〔俳句〕  
水草〔三句〕良々〔三句〕紅杜鵑〔三句〕  
蹇へ妻〔俳句六句〕 きち  
疲れしいのち〔俳句一〇句〕 きち  
消息 折柴

第七号 (大正4年4月10日)  
山房より〔随想・短歌一首〕 夕咲  
帰趣と表現〔評論〕 又花村  
喫茶のたより〔詩〕 七面鳥  
ツチグモ主義〔評論〕 限々  
冬日を恋ふて〔俳句一八句〕 鋤雲  
絵巻物〔小説〕 秋花  
一切集〔俳句五三句〕 折柴  
麗雪の春〔俳句〕  
鋤雲〔二句〕又花村〔二句〕桜南〔二句〕良々〔二句〕水草〔二句〕菊字〔二句〕  
消息 折柴



第八号 (大正4年6月1日)

ツチグモ 第八號

山房より〔随想・短歌一首〕 夕咲  
個的信仰〔随想〕 KUS  
ひげそり〔短歌五首〕 吉平  
船のり哲学〔随想〕 鵜平  
友に〔随想〕 ふくたろう  
さまざま〔詩〕 七面鳥  
陽炎を追ひつゝ〔俳句七句〕 鋤雲  
下萌ゆる日に〔俳句一〇句〕 鋤雲  
ある朝の会話〔随想〕 一碧楼  
姉の頬腫れ〔短歌三首〕 きくち  
砂金抄〔俳句〕

(桜南居に於て) 桜南〔三句〕良々〔四句〕菊字〔二句〕水草〔三句〕  
(大隆寺に於て) 又花村〔三句〕桜南〔四句〕良々〔四句〕菊字〔三句〕鋤雲〔三句〕紅杜鵑〔五句〕水草〔三句〕  
(鋤雲亭に於て) 良々〔四句〕鋤雲〔三句〕水草〔三句〕  
一切集〔俳句六二句〕 折柴  
我今集〔俳句四六句〕 鋤雲  
消息 孝作  
八九子画会清規  
第九号 (大正4年8月1日)  
山房より〔「氷屋の白昼の幻想」〕「むし歯の悩み」〕銀座よ銀座

よ一「随想・短歌一首」

第十号（大正4年9月1日）

砂金抄

懐しい人々「随想」

夕咲

山房より「随想・短歌一首」

夕咲

ゆふべ「詩」

ヨシロウ

俳句の三味線的研究「俳論」

一碧楼

絲切れ「詩」

一碧楼

おゑん物語「小説」

芳郎

若葉に「詩」

紅杜鵑

ひげ「短歌八首」

吉平

家から旅から「短歌一首」

吉平

雨夜の二階にて「随想」

地橙孫

行李の裡から「俳句一六句」

鋤雲

汽車見るのみに「俳句二五句」

鋤雲

芍薬の咲く寺へ「同行七人」「俳句」

「いらくさの如く」返答「俳論」吟波代人

桜南「四句」又花村「三句」良々「三句」

一切集「俳句三六句」

折柴

句「菊字」五句「紅杜鵑」四句「水草」

我今集「俳句一三句」

鋤雲

「六句」

高岡から「俳句五句」

竹の門

（逢ふまで）鋤雲「八句」

砂金抄「俳句」

（紅杜鵑別荘に於て）良々「四句」菊

いらくさの如く「俳論」

字「四句」紅杜鵑「三句」桜南「二句」

「俳誌「射手」紹介」

鋤雲「五句」水草「四句」

一切集「俳句四二句」

（保木の茶店へ（七月某日））水草「二句」

我今集「俳句一六句」

消息

砂金抄「俳句」

孝作

（山田屋にて）良々「三句」菊字「二句」

第十一号（大正4年10月20日）

孝作

句「紅杜鵑」一句「桜南」一句「鋤雲」

山房より「随想・短歌一六首」

夕咲

「三句」水草「二句」

赤野から「随想」

董哉

（すぎき屋にて）良々「六句」菊字「五句」

俳句の転換期「俳論」

江田良雄

句「紅杜鵑」二句「鋤雲」三句「桜南」

一切集「俳句四〇句」

折柴

「一句」水草「二句」

我今集「俳句二二句」

鋤雲

消息

折柴

モグチリ



行設日一月二 號二十第

一川沿の小柴の二階にて一良々「五句」  
菊字「二句」紅杜鵑「四句」鋤雲「五句」水草「四句」  
消息  
良々  
折柴

第十二号（大正5年2月1日）  
山房より「随想・短歌一〇首」  
新しい旧派を讀みて一井泉水氏に  
云ふ「俳論」  
良雄  
我と周囲と「短歌」  
吉平  
飛騨学寮より「随想」  
孝作  
砂金抄「俳句」  
一みなと川に於て一鋤雲「五句」桜南  
「三句」良々「四句」菊字「四句」紅  
杜鵑「二句」夕咲「三句」

―善応寺にて―桜南〔三句〕菊字〔三句〕水草〔三句〕

―月波楼新年句会―良々〔二二句〕菊字〔三句〕桜南〔四句〕紅杜鵑〔五句〕

芋子〔三句〕鋤雲〔六句〕水草〔二句〕秋風の中にて〔九月四日〕〔俳句五句〕鋤雲

木曾まで〔九月六日〕〔俳句五句〕鋤雲雨半日晴半日〔九月二十一日〕〔俳句五句〕鋤雲

又秋風のうちにて〔九月廿二日〕

〔俳句六句〕

郊外二百歩〔九月二十六日〕〔俳句五句〕鋤雲

一切集〔俳句七九句〕

消息

第十三号（大正5年5月20日）  
山房より〔随想・短歌一二首〕

（去来抄より）

直接といふこと〔俳論〕

三日月さま〔小品〕

飛騨高山の春―ノートより―〔随想〕孝作  
砂金抄〔俳句〕

―鋤雲亭に於て―鋤雲〔三句〕桜南〔三句〕良々〔三句〕菊字〔三句〕

水草〔二句〕

―鋤雲亭小集―鋤雲〔七句〕良々〔四句〕芋子〔三句〕紅杜鵑〔三句〕水草〔四句〕

―桜南居句会―鋤雲〔八句〕良々〔三句〕紅杜鵑〔四句〕桜南〔三句〕芋子〔五句〕水草〔二句〕

一切集〔俳句五〇句〕折柴  
我今集〔俳句五九句〕鋤雲  
消息 孝作



第十四号 八月十日發行

第十四号（大正5年8月10日）

山房より〔随想・短歌一〇首〕夕咲  
家と旅と〔短歌二四首〕吉平  
夕明り〔短歌五首〕紅杜鵑  
直接といふ事（再び）〔俳論〕折柴

砂金抄〔俳句〕

―鋤雲亭句会―桜南〔七句〕鋤雲〔一六句〕飛泉〔八句〕良々〔七句〕貝囀〔七句〕水草〔五句〕

―鋤雲亭に於て―鋤雲〔六句〕良々〔五句〕芋子〔六句〕桜南〔五句〕貝囀〔八句〕水草〔七句〕

―紅杜鵑莊に於て―良々〔八句〕芋子〔一〇句〕紅杜鵑〔四句〕水草〔九句〕

―上野行（一行五人）―紅杜鵑〔五句〕一切集〔俳句六八句〕折柴  
我今集〔俳句二七句〕鋤雲  
消息 孝作

第十五号（大正5年9月15日）

山房より〔随想・短歌一二首〕夕咲  
小さき範圍〔短歌一六首〕吉平  
窓三つ〔詩〕YKS  
家を持つ二題〔詩〕KUS  
砂金抄〔俳句〕

―鋤雲亭に於て七月五日―鋤雲〔九句〕桜南〔七句〕紅杜鵑〔五句〕水草〔八句〕  
―納涼句会（七月廿二日夜、於公会堂）―良々〔六句〕桜南〔七句〕芋子〔五句〕水草〔四句〕鋤雲〔三句〕

―鋤雲亭にて―鋤雲〔四句〕良々〔三句〕水草〔三句〕

一切集〔俳句二三句〕折柴

我今集〔俳句四一句〕鋤雲

消息 孝作

第十六号（大正5年10月15日）

山房より〔随想・短歌一三首〕夕咲

手紙〔随想〕四々

秋〔俳句九句〕四々

後に前に〔短歌一四首〕吉平

砂金抄〔俳句〕

―雨夜の観月句会―鋤雲〔五句〕飛仙

〔三句〕良々〔四句〕桜南〔四句〕紅

杜鵑〔四句〕貝十〔四句〕水草〔五句〕

―貝十村舎句会―貝十〔十句〕良々〔四句〕

句〕桜南〔一〇句〕紅杜鵑〔五句〕水

草〔八句〕

―子規忌―桜南〔一句〕貝十〔二句〕

紅杜鵑〔一句〕水草〔一句〕

一切集〔俳句二三句〕折柴

我今集〔俳句二九句〕鋤雲

消息 折柴

第十七号（大正5年11月15日）

立太子礼の日に〔詩〕

きち

縦の木の下面にて〔随想〕

うつゝと夢と〔短歌一七首〕

落日〔詩二篇〕

砂金抄〔俳句〕

―貝十舎小集―貝十〔三句〕良々〔六句〕水草〔六句〕

―鋤雲亭小集―鋤雲〔五句〕良々〔五句〕水草〔四句〕

我今集〔俳句五八句〕鋤雲

深夜の喜び〔随想〕芳郎

一切集〔俳句五五句〕折柴

消息 折柴

第十八号（大正6年1月15日）

山房より〔随想・短歌一一首〕

小さんと円右〔随想〕

醉へるがまゝに〔随想〕

無題〔詩〕

我今集〔俳句五三句〕

砂金抄〔俳句〕

―鋤雲亭小集（十一月十日）―鋤雲〔一六句〕貝十〔一二句〕良々〔三句〕紅

杜鵑〔六句〕水草〔二〇句〕

―鋤雲亭小集（十一月二十一日）―鋤雲〔七句〕良々〔二句〕貝十〔六句〕

紅杜鵑〔一〇句〕水草〔六句〕

孝作

吉平

白映

孝作

一切集〔俳句一〇五句〕

消息

第十九号（大正6年2月15日）

山房より〔随想・短歌一一首〕

私は〔随想〕

山上の独白〔詩〕

砂金抄〔俳句〕

―鋤雲亭小集―鋤雲〔二三句〕桜南〔四句〕芋子〔四句〕良々〔四句〕紅杜鵑

〔四句〕貝十〔三句〕水草〔三句〕

一切集〔俳句二四句〕折柴

我今集〔俳句二四句〕鋤雲

消息 折柴

第二十号（大正6年5月15日）

たんぽぽと色ばなし―晩春情景の中

〔詩〕

山房より〔随想・短歌一〇首〕

無垢清浄光鈔〔俳句二八句〕

半百集〔俳句三九句〕

編輯後記

第二十一号（大正6年7月15日）

白骨温泉より〔俳句二三句〕

山房より〔随想・短歌一二首〕

消息

折柴

夕咲

折柴

野ばら集〔短歌四首〕 夕咲  
砂金抄〔俳句〕  
―若美屋温泉行―鋤雲〔六句〕桜南〔五句〕貝十〔六句〕菊字〔三句〕紅杜鵑〔四句〕水草〔六句〕折柴〔一二句〕芋子〔五句〕良々〔四句〕  
第二十二号（大正6年8月15日）  
ひるの月〔短歌一〇首〕 夕咲  
飛驒学寮より〔随想〕 折柴

新風俗〔俳句六句〕 琳女  
旅中雜吟（一）〔俳句六句〕 鋤雲  
はたるの悩み〔俳句三四句〕 良々  
騒音の如き沈黙〔詩〕 白映  
砂金抄  
―壤涯居小集―鋤雲〔七句〕折柴〔八句〕良々〔五句〕紅杜鵑〔四句〕  
―月次例会―桜南〔五句〕貝十〔三句〕芋子〔四句〕紅杜鵑〔五句〕

―鋤雲亭小集―鋤雲〔一三句〕水草〔一四句〕折柴〔五句〕 白映  
光華集〔短歌〕 紅杜鵑  
波うつ畠〔六首〕 夕咲  
心遣り〔四首〕 紅杜鵑  
郊外情景〔五首〕 貝十  
お糸さん〔小説〕 鋤雲  
日傘〔俳句八句〕 鋤雲  
半百集〔俳句三五句〕 鋤雲  
旅中雜吟（二）〔俳句九句〕 鋤雲

## 受贈図書雑誌目録

（五十音順）

昭和五十四年十月／昭和五十五年九月

愛泉女子短期大学紀要 第10号

（愛泉女子短期大学愛泉学会）

愛知学院大学文学部紀要 第9号

（愛知学院大学文学会）

愛知淑徳大学国語国文 第3号

（愛知淑徳大学国文学会）

愛文 第16号

（愛媛大学法文学部国語国文学研究室）

青須我波良 第19・20号

（帝塚山短期大学日本文学会）

青山学院大学文学部紀要 第15・16・18・20号

（青山学院大学文学部）

青山語文 第10号

（青山学院大学日本文学会）

アカデミア 第27・28号

（南山大学）

跡見学園短期大学紀要 第16集

（跡見学園短期大学）

茨城キリスト教大学紀要 第6・12号

（茨城キリスト教大学）

宇部短期大学学術報告 第8・10・15号

（宇部短期大学）

愛媛国文研究 第29号

（愛媛国語国文学会）

愛媛国文と教育 第11号

（愛媛大学教育学部国語国文学会）

愛媛大学法文学部論集文学科篇 第12号

（愛媛大学法文学部）

追手門学院大学文学部紀要 第13号

（追手門学院大学文学部）

大阪樟蔭女子大学論集 第17号

（大阪樟蔭女子大学学術研究会）

大阪城南女子短期大学研究紀要 第1・3号

（大阪城南女子短期大学）

大谷女子大学紀要 第14号第1・2輯

（大谷女子大学）

大谷女子大國文 第10号

（大谷女子大学国文学会）

大妻国文 第11号